

丹沢大山遭難(2006年10月15日)

丹沢大山にでかけた家族4人が道に迷い、4日ぶりに無事発見され救出された。丹沢大山からの下りの尾根分岐を誤り、唐澤峠から更に北側の唐沢川に降りてからやっと間違いに気付いた。その日はうろうろしたが日没で野宿。翌日は救助を待って、その場を動かず、次の日は沢沿いを下っているところを発見された。



解説

丹沢大山は、コースも整備されていて超メジャーな山域。誰もが登る手軽な山だからこそ、道迷いは潜んでいる。頂上で昼食を取り、下山時の道の分岐で尾根を間違えた。大山山頂から登ってきたケーブルカーを見ながら下山すればいいのだが、知らない間に北へと進路が変わっている。今回の遭難では、国土地理院地形図ではなく観光案内程度の地図しか持っていなかったことも原因している。したがって、「おかしい。道に迷った」と気付いたときは、よっぽどおかしい状況になってしまうケースが多い。

ルートが違うと思ったら、「**戻る勇気が必要ではなく、戻る以外に道はない**」と常に考えてほしいのだが、道迷いの心理は、もう一人の自分が「進め！何とかなる！」とささやいてしまう。今回は、4人の家族で道迷いが起きているが、この中に登山経験者がいた為、おかしいと思って進んでしまった(他人まかせの状況では早い段階で、「道に迷っている」との声が上がりにくい)事例である。

これがもし、全員が初心者の場合、不安になり「戻ろう」という声も上がったかもしれない。道迷いの不思議は、遭難者の構成人数、経験等によって、悪い方向へ進んでしまうケースがある。

ぜひ、メジャーなハイキングコースでも国土地理院の地図を持参してほしい。